

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-90646

(P2021-90646A)

(43) 公開日 令和3年6月17日(2021.6.17)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 G 7/14 (2006.01)	A 6 1 G 7/14	4 C 0 4 0
A 6 1 G 5/14 (2006.01)	A 6 1 G 5/14	
A 6 1 G 1/003 (2006.01)	A 6 1 G 1/003 7 0 1	

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 21 頁)

(21) 出願番号	特願2019-223456 (P2019-223456)	(71) 出願人	719007877
(22) 出願日	令和1年12月11日 (2019.12.11)		山田 満都子
(11) 特許番号	特許第6695605号 (P6695605)		京都府木津川市加茂町岡崎中縄手2番地
(45) 特許公報発行日	令和2年5月20日 (2020.5.20)	(72) 発明者	山田 満都子
			京都府木津川市加茂町岡崎中縄手2
		Fターム(参考)	4C040 AA01 AA03 AA08 CC10 GG14 JJ06

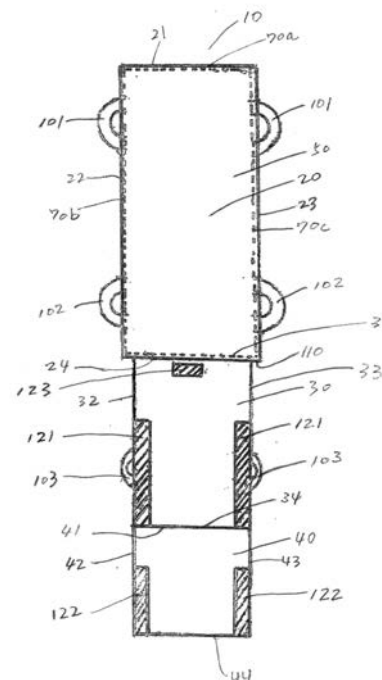
(54) 【発明の名称】 介護マット

(57) 【要約】

【課題】介護の必要な寝たきりの利用者に対して介助の他、四肢を動かすことができない利用者に対して痛みを伴わず安全に移動できる介護マットを提供する。

【解決手段】本発明の介護マット10は、被介護者200の胴体部が載置される縦長形状の第1マット部20と、縦長形状の下部に結合され被介護者200の脚部202が載置される第2マット部30と、第2マット部30の下部に結合され被介護者200の脚部202を覆う第3マット部40と、第1マット部20の左右側部に設けられた第1取手部101、102とを備える。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

被介護者の胴体部が載置される縦長形状の第 1 マット部と、前記縦長形状の前記第 1 マット部の下部に結合され前記被介護者の脚部が載置される第 2 マット部と、前記第 2 マット部の下部に結合され前記被介護者の脚部を覆う第 3 マット部と、前記第 1 マット部の左右側部に設けられた第 1 取手部とを備えた介護マット。

【請求項 2】

前記第 2 マット部および前記第 3 マット部のそれぞれの左右側部に設けられた着脱可能な結合手段と、前記第 2 マット部の左右側部に設けられた第 2 取手部とを備え、前記第 2 マット部の左右側部の前記結合部のそれぞれは、前記第 3 マット部の左右側部の前記結合部のそれぞれと結合される請求項 1 に記載の介護マット。

10

【請求項 3】

前記第 1 マット部は、前記第 2 マット部および前記第 3 マット部を収納する収納部を有する請求項 1 に記載の介護マット。

【請求項 4】

前記第 1 取手部は、前記第 1 マット部の左右側部のそれぞれに 2 個設けられた請求項 1 に記載の介護マット。

【請求項 5】

前記第 1 マット部および前記第 3 マット部は、キルティングからなる請求項 1 に記載の介護マット。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、被介護者などに使用される介護マットに関する。

【背景技術】**【0002】**

高齢化社会を迎え、被介護者（以後、利用者と言う）の数が年々増加している。また、不慮の事故により若年層の利用者も増えている。介護施設での看護や介護のみならず、我が国は在宅介護を推奨している現状にある。従来の介護マットは、利用者をベッドからストレッチャー、車椅子に移動させることに重きを置いている。また、利用者を介護する際、抱き起こす、体位変換させる（寝返りさせる）等、介助者の身体的負担を軽減させる器具も多くない。

30

例えば、特許文献 1 には、折り畳み可能な細長い形状を有し患者の身長方向に展開可能なシートと、シート長手方向の中央部及び両端部に各々配設された引き紐とを備え、引き紐は、シートの各側縁部に各一端が固着され中間部分は位置が固定されていない患者移乗用具が開示されている。

【0003】

この患者移乗用具によれば、患者の背中の中片側からシートを挿入して、他方側から引き紐を引っ張って、患者の背中にシートを展開する。車椅子に患者を移動する場合や車椅子から患者をベッドに移す場合は、患者の背面に常にこのシート配置している。

40

【0004】

また、例えば、特許文献 2 には、被介護者を載せるマットと、マットの両端部に取り付けられた 1 組の取手紐と、マット背面側に開口部を有する筒状シートと、を備えた被介護者移動マットが開示されている。

この被介護者移動マットによれば、取手紐を移動方向に引き、利用者を乗せたマットを、筒状シートの上で利用者の身体の横方向に移動させることで利用者を移動させる。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0005】**

【特許文献 1】 特開 2013 - 165838 号

50

【特許文献 2】実用新案登録第 3 1 8 9 7 9 5 号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、特許文献 1、2 に記載の介護マットは、ベッドからストレッチャー又は、ストレッチャーからベッドに滑動させて利用者を移動させるだけのものである。したがって、仰向けで寝ている利用者に対して上半身を起こす、半身に向きを変えて寝返りをうたせる、車椅子又はベッドから抱きかかえて立たせるという動作は出来ない、という課題を有している。このように、従来の介護マットは、マットに利用者に乗せて横にスライドさせて移動するのみが目的であった。したがって、脚に障害を有する利用者などを移動させる場合は、マットから脚がはみ出したりして、利用者の脚を傷つけることがあった。

10

本発明は、利用者および介助者共に快適かつ、安心安全な介護生活が送れるようにとの観点から、上記課題を解決すべく開発されたものである。

本発明は、上半身を起こす、半身に向きを変えて寝返りをうたせるなどの動作を利用者は痛みを伴わず安全にかつ、容易に利用者を移動させることのできる介護マットを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の介護マットは、利用者の胴体部が載置される縦長形状の第 1 マット部と、縦長形状の第 1 マット部の下部に結合され利用者の脚部が載置される第 2 マット部と、第 2 マット部の下部に結合され利用者の脚部を覆う第 3 マット部と、第 1 マット部の左右側部に設けられた第 1 取手部とを備えている。

20

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、利用者に負担をかけることなく、容易に利用者を抱き起こしたり、寝返りをさせたり、移動させたりすることのできる介護マットを提供することが出来る。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図 1】本発明の介護マットを示す正面図である。

【図 2】本発明の介護マットを示す背面図である。

30

【図 3】本発明の介護マットの使用状態を示す図である。

【図 4】本発明の介護マットの寸法を説明する図である。

【図 5】本発明の介護マットの第 1 マット部を示す正面図である。

【図 6】本発明の介護マットの第 2 マット部を示す正面図である。

【図 7】本発明の介護マットの第 3 マット部を示す正面図である。

【図 8】本発明の介護マットを示す側断面図である。

【図 9】本発明の介護マットを示す他の側断面図である。

【図 10】本発明の介護マットの使用状態を示す図である。

【図 11】本発明の介護マットの使用状態を示す図である。

【図 12】本発明の介護マットの使用状態を示す図である。

40

【図 13】本発明の介護マットの他の使用状態を示す図である。

【図 14】本発明の介護マットの他の使用状態を示す図である。

【図 15】本発明の介護マットの他の使用状態を示す図である。

【図 16】本発明の介護マットのさらに他の使用状態を示す図である。

【図 17】本発明の介護マットのさらに他の使用状態を示す図である。

【図 18】本発明の介護マットのさらに他の使用状態を示す図である。

【図 19】本発明の介護マットのさらに他の使用状態を示す図である。

【図 20】本発明の介護マットのさらに他の使用状態を示す図である。

【図 21】本発明の介護マットの別の使用状態を示す図である。

【図 22】本発明の介護マットの別の使用状態を示す図である。

50

【図 2 3】本発明の介護マットの別の使用状態を示す図である。

【図 2 4】本発明の介護マットの別の使用状態を示す図である。

【図 2 5】本発明の介護マットの使用時の要部を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

以下、本発明の実施形態について図面を参照して詳細に説明する。

【0011】

図 1 ~ 図 9 を用いて本発明の介護マットの一実施形態について説明する。

本実施形態の介護マット 10 は、利用者 200 の胴体部 201 (図 3 参照) が載置される縦長形状の第 1 マット部 20 と、縦長形状の第 1 マット部 20 の下部に結合され利用者 200 の脚部 202 (図 3 参照) が載置される第 2 マット部 30 と、第 2 マット部 30 の下部に結合され利用者 200 の脚部 202 を覆う第 3 マット部 40 と、第 1 マット部 20 の左右側部に設けられた第 1 取手部 101、102 とを備えている。

10

【0012】

また、本実施形態の介護マット 10 は、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 のそれぞれの左右側部に設けられた着脱可能な結合部 121、122 としての面ファスナーと、第 2 マット部 30 の左右側部に設けられた第 2 取手部 103 とを備え、第 2 マット部 30 の左右側部の着脱可能な結合部 121 のそれぞれは、第 3 マット部 40 の左右側部の着脱可能な結合部 122 のそれぞれと結合される。

【0013】

20

また、本実施形態の介護マット 10 は、第 1 マット部 20 が、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 を収納する収納部 50 (図 8、9 参照) を有する。第 1 マット部 20 は、図 8、9 に示されるように、表面部 20A と裏面部 20B の 2 枚の生地から構成され、表面部 20A (利用者 200 が載置される側の生地) および裏面部 20B のそれぞれの上辺部 21、左辺部 22、右辺部 23 は、互いに縫い合わされ、下辺部 24 は縫い合わされずに解放されている。図 1 ~ 図 7 の点線はそれぞれ、第 1 マット部 20 の上辺部 21、左辺部 22、右辺部 23 が縫い合わされた縫い合わせ部 70a、70b、70c を示している。

【0014】

30

また、本実施形態の介護マット 10 は、第 1 取手部 101、102 が、第 1 マット部 20 の左右側部のそれぞれに 2 個設けられている。すなわち、左側部に第 1 取手部 101、102 の 2 つと、右側部に第 1 取手部 101、102 の 2 つが設けられている。また、本実施形態の介護マット 10 は、第 1 マット部 20 の表面部 20A (利用者 200 が載置される側の生地) および第 3 マット部 40 は、キルティングの素材 (キルティング材) からなる。

【0015】

40

さらに詳細には、本発明の実施形態に係る介護マット 10 は、利用者 200 の頭部 203 の少なくとも一部および胴体部 201 (要部および臀部を含む) を保持する第 1 マット部 20、利用者 200 の脚部 202 を保持する第 2 マット部 30、利用者 200 の脚部 202 を覆って保持する第 3 マット部 40 の 3 つのマット部から構成される。第 1 マット部 20 の左右側部 (長方形形状の左辺部 22 および右辺部 23) には、ループ状の紐などからなる、それぞれ 2 つずつ合計 4 つの取手部 101、102 を備える。第 2 マット部 30 の左右側部 (左辺部 32 および右辺部 33) にはそれぞれ 1 つずつ合計 2 つの U 字形状の紐などの取手部 103 を備える。

【0016】

第 1 取手部 101 は、利用者 200 の肩甲骨部分に位置しており、第 1 取手部 102 は、利用者 200 の臀部部分に位置している。本実施形態では、左右側部の第 1 取手部 101 は 1 つのループ状の材料を用いることにより一体化されており、同様に左右側部の第 1 取手部 102 は同様に 1 つのループ状の材料を用いることにより一体化されている。

図 2 では一体化された第 1 取手部 101、102 を示しており、点線はそれぞれ、第 1 マ

50

ット部 2 0 と第 1 取手部 1 0 1 および第 1 取手部 1 0 2 との縫い合わせ部 7 0 d および縫い合わせ部 7 0 e を示している。本実施形態では、第 1 取手部 1 0 1、1 0 2 は、第 1 マット部 2 0 の裏面部 2 0 B に縫い付けられているために、縫い合わせ部 7 0 d、7 0 e は図 2 の背面図のみに現れている。

【0017】

これら第 1 取手部 1 0 1、1 0 2 は、左右で一体化されなくとも、U 字形状の取手を、第 1 マット部 2 0 の左側部の上方部および下方部、ならびに右側部の上方部および下方部にそれぞれ独立して設けられても良い。

【0018】

第 2 取手部 1 0 3 は、第 2 マット部 3 0 の中央部下方の左右側部に、本実施の形態では、独立して設けられている。しかし、第 2 取手部 1 0 3 は左右側部で、第 1 取手部 1 0 1、1 0 2 のように一体化されても良い。第 2 取手部 1 0 3 と第 2 マット部 3 0 とは、点線で示す縫い合わせ部 7 0 f で縫い合わされている。本実施形態では、第 2 マット部 3 0 は裏地を有しており、第 2 取手部 1 0 3 は、第 2 マット部 3 0 の表地と裏地との間に縫い付けられているため、縫い合わせ部 7 0 f は図 2 の背面図のみに現れている。

【0019】

第 2 マット部 3 0 の左右側部（左辺部 3 2 および右辺部 3 3）には、着脱可能な結合部 1 2 1 としての面ファスナーが設けられている。同様に、第 3 マット部 4 0 の左右側部（左辺部 4 2 および右辺部 4 3）には、着脱可能な結合部 1 2 2 としての面ファスナーが設けられている。第 2 マット部 3 0 は図 1 の正面図では、表面（利用者 2 0 0 の脚部 2 0 2 が載置される面）にキルティング材が用いられている。第 3 マット部 4 0 も裏地を有しており、図 1 の正面図では、裏面（折り返したときに外側になる面）にキルティング材が用いられている。したがって、図 1 に示す正面図では、第 1 マット部 2 0、第 2 マット部 3 0 はキルティング材の絵柄が見え、第 3 マット部 4 0 はキルティング材の裏地が見える。第 3 マット部 4 0 を、第 2 マット部 3 0 を覆うように折り返したときは、第 3 マット部 4 0 はキルティング材の絵柄が見えることになり、外観の美観が高まる。

【0020】

第 2 マット部 3 0 に設けられた結合部 1 2 1 は、図 1、3 に示すように、第 2 マット部 3 0 の左右側部のそれぞれにおいて、下辺部 3 4 から中央上方部まで設けられている。第 3 マット部 4 0 の結合部 1 2 2 も、同様に、図 1、3 に示すように、第 3 マット部 4 0 の左右側部のそれぞれにおいて、下辺部 4 4 から中央上方部まで設けられている。第 3 マット部 4 0 は第 2 マット部 3 0 を覆うように、ほぼ第 2 マット部 3 0 の下辺部 3 4（第 3 マット部 4 0 の上辺部 4 1）で折り返され、結合部 1 2 1 と結合部 1 2 2 とが結合されるように構成されている。

【0021】

すなわち、第 2 マット部 3 0 に載置される利用者 2 0 0 の脚部 2 0 2 を第 3 マット部 4 0 で覆って保持および固定するように、結合部 1 2 1 と結合部 1 2 2 とが結合される。結合部 1 2 1、1 2 2 を面ファスナーで構成することにより、結合部 1 2 1、1 2 2 の着脱が可能となり、第 3 マット部 4 0 の第 2 マット部 3 0 への折り返しが容易となる。しかし、結合部 1 2 1、1 2 2 は面ファスナーに限らず、線ファスナー、凹凸状のホック、ボタンとボタン穴などでも構成できる。しかし、面ファスナーは利用者などに傷などを与える可能性がなく、迅速に着脱が行える。

【0022】

本実施形態では、結合部 1 2 1 および結合部 1 2 2 が、それぞれ長さ J、K を有しているので、結合部 1 2 1 と結合部 1 2 2 との結合点を、ほぼ長さ J + K の範囲で調整できる。したがって、利用者 2 0 0 の脚部 2 0 2 の長さや、足の大きさ、脚部の不自由さなどに応じて、第 2 マット部 3 0 と第 3 マット部 4 0 で利用者 2 0 0 の脚部 2 0 2 を覆って保持する力加減を調整でき、利用者 2 0 0 に負荷を課することはない。

【0023】

本実施形態の介護マット 1 0 は、図 4 に示すように、第 1 マット部 2 0 は短辺が A、長

10

20

30

40

50

辺がBの長方形形状である。第2マット部30は短辺がM、長辺がCの長方形形状である。第3マット部40は、短辺がM、長辺がDの長方形形状である。

【0024】

取手部101は、第1マット部20の上部の短辺(上辺部21)からEだけ離れた位置にFの幅で、第1マット部20の裏面部20Bに縫い付けられている。第1取手部102は、第1取手部101の下方からGだけ離れた位置にHの幅で、第1マット部20の裏面部20Bに縫い付けられている。したがって、第1取手部102の下方は、第1マット部20の下部の短辺(下辺部24)からIだけ離れた位置に設けられる。第2マット部30の両側部に設けられた結合部121は、第2マット部30の下辺部34から長さがJ、幅がLの帯状の面ファスナーである。第3マット部40の両側部に設けられた結合部122は、第3マット部40の下辺部44から長さがK、幅がLの帯状の面ファスナーである。

10

【0025】

ここで、これら寸法は、本実施形態では、例えば、Aが480mm、Bが1010mm、Cが580mm、Dが370mm、Eが110mm、Fが180mm、Gが430mm、Hが180mm、Iが110mm、Jが370mm、Kが230mm、Lが50mm、Mが410mmである。

【0026】

収納部50は、本実施形態では、第1マット部20と一体に形成されている。すなわち、第1マット部20は、縦長形状で下方に開口部110を有する扁平筒形状の袋状を有している。すなわち、図8、9に示すように、第1マット部20は、同一形状の表面部20Aおよび裏面部20Bを構成する2枚の生地(キルティング材)から構成され、第1マット部20の上辺部21、左辺部22、右辺部23において表面部20Aおよび裏面部20Bが縫い付けられ、下辺部24が開口部110を有している。すなわち、それぞれ、図1、図2の点線で示す縫い付け部70a、70b、70cで縫い付けられている。

20

【0027】

本実施形態では、図8に示されるように、第1マット部20の表面部20Aの下辺部24の内側に、第2マット部30の上辺部31が縫い合わされている。

【0028】

また、本実施形態では、図8に示すように、第1マット部20の裏面部20Bの内側の下部と、第2マット部30の上辺部31の外側(表面側)とには、それぞれ互いに直脱可能な第1マット結合部123が形成されている。本実施形態では、第1マット結合部123も面ファスナーで構成されているが、凹凸状のホック、ボタンおよびボタン穴、などの部材でも構成可能である。しかし、利用者200に傷の可能性などの不快感を与えないためには面ファスナーが好適である。

30

【0029】

なお、本実施形態では、第1マット部20を、同一形状の表面部20Aおよび裏面部20Bで構成したが、裏面部20Bの下方を表面部20Aより少し長くして、裏面部20Bの表面部20Aより長い延長部に第1マット結合部123を形成することも可能である。

【0030】

以上のような構成により、図9に示すように、第2マット部30を、第1マット部20との縫い合わせ部で裏面側に折り返して開口部110から挿入することにより、第2マット部30と第3マット部40を第1マット部20の収納部50に収納することができる。このとき、第1マット部20の第1マット結合部123と第2マット部30の第1マット結合部123とを結合することにより、収納部50の開口部110を閉じて、第2マット部30および第3マット部40の収納部50からの脱落を防止できる。

40

【0031】

2つの第1マット結合部123は互いに着脱可能に結合できて収納部50の開口部110を閉じることができればよいので、第2マット部30に第1マット結合部123を設ける代わりに、第1マット部20の表面部20Aの下辺部24の内側に第1マット結合部123を設け、第1マット部20の表面部20Aと裏面部20Bとで開口部110を閉じる

50

ことも可能である。

【0032】

また、第2マット部30を第1マット部20の裏面部20Bの下辺部24の内側に縫い付け、第2マット部30を、第1マット部20との縫い合わせ部で表面側に折り返すことにより、第2マット部30と第3マット部40を第1マット部20の収納部50に収納することも可能である。この場合は、第1マット部20の表面部20Aの下辺部24の内側に第1マット結合部123を設け、さらに第2マット部30の上辺部31の外側（裏面側）に、第1マット結合部123を設け、これら2つの第1マット結合部123を結合することにより、開口部110を閉じることが可能である。しかし、利用者200に対する縫い目の段差などによる負担を考えると、本実施形態が好適である。

10

【0033】

図8に示すように、第2マット部30は、上辺部31が、袋状の第1マット部20の開口部110の表面部20Aの下辺部24の内側に縫い付けられている。第3マット部40は、上辺部41が第2マット部30の裏面側下辺部34に縫い合わせて一体化されている。

【0034】

本発明の使用状態を示す図13の矢印に示すように、第3マット部40を第2マット部30の表面側に折り返し、着脱可能な結合部121と結合部122とを結合する。これにより、第2マット部30と第3マット部40とで形成される袋状部分に利用者200の脚部202を保持、固定することができる。なお、第2マット部30と第3マット部40とを1枚の生地で構成し、第2マット部30と第3マット部40との境界部分に縫い目を付けるなどして、第2マット部30と第3マット部40とを折り返し可能に構成することも可能である。

20

【0035】

上記したように、第2マット部30と第3マット部40は、第1マット部20と第2マット部30との結合部で裏面側に折り返して、収納部50に収納され、第1マット部20および第2マット部30の第1マット結合部123同士が結合され、開口部110が閉じられる。すなわち、この状態では、第1マット部20は、表面部20Aと、裏面部20Bと、収納部50内の第2マット部30および第3マット部40との三重構造になる。

【0036】

30

以上のように本実施形態では、不使用時には、第2マット部30と第3マット部40を収納部50に収納した状態で保管する。使用する際には、四肢の機能に障害を有する利用者200に対しては、第2マット部30、第3マット部40を収納部50から取り出し、第3マット部40を第2マット部30の表面側に折り返し、結合部121、122を結合する（面ファスナーの場合は互いに貼付ける）。このように、第3マット部40を第2マット部30の表面側に折り返して着脱可能な結合部121、122で結合することにより、第2マット部30と第3マット部40とで両足を入れる袋を作ることができ、利用者200の両足（脚部202）を保持、固定することができる。また、第1取手部101、102、第2取手部103を把持して、3名の介助者で利用者200を持ち上げ、容易に移動することができる。

40

【0037】

また、脚部202の機能に障害を有しない利用者200に対しては、第2マット部30、第3マット部40を収納部50に収納した三重構造のままで、第1マット部20に利用者200を載置して、第1取手部101、102を把持して介助者2名で利用者200の移動を行うことができる。

【0038】

第1マット部20の収納部50に第2マット部30、第3マット部40を収納することでコンパクト化することが出来、2名の介助者で利用者200を持ち上げ、浮かせての移動が可能である。コンパクトに収納した介護マット10は、介護の必要な寝たきりの利用者に対して、三重構造のクッション性を有してベッドに敷いたままに出来、仰向きに寝た

50

状態の利用者を起こす、体位を変える、寝返りを打たせる、の動作が容易に出来る。

【 0 0 3 9 】

また、椅子に座ったままの利用者 2 0 0 に対しては、収納部 5 0 に第 2 マット部 3 0、第 3 マット部 4 0 を収納した状態で、さらに 4 つ折りにした介護マット 1 0 を利用者の両脇に挟み、介助者が第 1 取手部 1 0 1 を手前上部に引き寄せることで痛みを伴わずに立たせることが出来る。

【 0 0 4 0 】

介護マット 1 0 は、利用者 2 0 0 を載置して搬送などするためのものでもあり、強度を保ち、かつ利用者の肌に馴染みやすく、通気性、即乾性にも優れているキルティング材を、図 1 ~ 5 に示すように縫製して（第 1 マット部 2 0 は二重に縫製して）使用する。

10

【 0 0 4 1 】

介護マット 1 0 に使用する第 1 取手部 1 0 1、1 0 2、第 2 取手部 1 0 3 は、手芸用カラーテープを使用する。手芸用カラーテープは軽量で丈夫な素材であり、手芸用カラーテープを第 1 マット部 2 0 の裏面部 2 0 B、第 2 マット部 3 0 の裏地（底部）に幾重にも渡って縫製することにより、介護マット自体の強度を増すことができる。手芸用テープを、例えば、キルティング材に縫製する際、第 1 取手部 1 0 1、1 0 2、第 2 取手部 1 0 3 の長さを第 1 マット部 2 0、第 2 マット部 3 0 の本体左右側部から外側に突出するように縫製する。

【 0 0 4 2 】

図 1 ~ 5 に示す第 1 マット部 2 0 は、表面部 2 0 A および裏面部 2 0 B で二重にしたキルティング材の開口部 1 1 0 を除き、上辺部 2 1、左辺部 2 2、右辺部 2 3 の 3 つの辺の縁をそれぞれ縫い合わせ、第 1 マット部 2 0 全体を袋状にして収納部 5 0 を形成する。第 1 マット部 2 0 の開口部 1 1 0 の裏面部 2 0 B の内側に、図 8、9 に示すように、第 1 マット結合部 1 2 3 としての面ファスナーを縫い合わせる。第 1 マット部 2 0 の開口部 1 1 0 から、図 6 に示す第 2 マット部 3 0 および図 7 に示す第 3 マット部 4 0 を、両者を一体にした状態で収納部 5 0 に挿入して収納する。第 1 マット部 2 0 の収納部 5 0 に第 2 マット部 3 0 および第 3 マット部 4 0 を収納した介護マット 1 0 は、脚部 2 0 2 に障害のない利用者 2 0 0 に対して使用する。

20

【 0 0 4 3 】

図 6 に示すように、第 2 マット部 3 0 の左辺部 3 2、右辺部 3 3 のそれぞれの下方には着脱可能な結合部 1 2 1 としての面ファスナーを縫い合わせる。また、図 7 に示すように、第 3 マット部 4 0 の左辺部 4 2、右辺部 4 3 のそれぞれの下方には、着脱可能な結合部 1 2 1 としての面ファスナー 1 2 2 を縫い合わせる。これにより、着脱可能な結合部 1 2 1、1 2 2 を結合することで、利用者 2 0 0 の脚部 2 0 2 を第 2 マット部 3 0 および第 3 マット部 4 0 を包んで保持、固定できる。結合部 1 2 1、1 2 2 の長さを適宜設定することにより、利用者 2 0 0 の脚部 2 0 2 を保持、固定する程度を調整できる。

30

【 0 0 4 4 】

次に、本実施形態にかかる介護マット 1 0 の製造方法の一例について説明する。まず、横 4 8 0 mm、縦 1 9 6 0 mm の大きさで、厚さ 7 mm のキルティング材と、横 4 8 0 mm、縦 1 0 1 0 mm の大きさで、厚さ 7 mm のキルティング材との 2 枚のキルティング材と手芸用カラーテープを縫製して介護マット 1 0 を制作する。

40

【 0 0 4 5 】

介護マット 1 0 は、生地キルティング材を用いるため強度を保つことができる。強度を更に高めるために、キルティング材を二重とすることも可能である。横 4 8 0 mm、縦 1 9 6 0 mm の大きさのキルティング材から、第 1 マット部 2 0 に対応する横 4 8 0 mm、縦 1 0 1 0 mm の大きさのキルティング材と、第 2 マット部 3 0 に対応する横 4 1 0 mm、縦 5 8 0 mm の大きさのキルティング材と、第 3 マット部 4 0 に対応する横 4 1 0 mm、縦 3 7 0 mm の大きさのキルティング材とを切り出す。

【 0 0 4 6 】

第 1 マット部 2 0 に対応する横 4 8 0 mm、縦 1 0 1 0 mm の大きさの 2 枚のキルティ

50

ング材は、一方を表面部 20A とし、他方を裏面部 20B として、2 枚共、絵柄のある面を外側にして縫製する。第 2 マット部 30 に対応する横 410 mm、縦 580 mm の大きさのキルティング材と、第 3 マット部 40 に対応する横 410 mm、縦 370 mm の大きさのキルティング材とは、それぞれ裏地を縫い合わせる。

【0047】

図 1、4 に示す正面図では、第 1 マット部 20 は表面部 20A のキルティング材の面が、第 2 マット部 30 はキルティング材の面が、第 3 マット部 40 はキルティング材の裏地の面が、利用者 200 の載置面となるように、第 1 マット部 20、第 2 マット部 30、第 3 マット部 40 が縫い合わされる。第 1 マット部 20 の表面部 20A の下辺部 24 の内側と第 2 マット部 30 の上辺部 31 の外側とが縫い合わされ（図 8、9 参照）、第 2 マット部 30 の下辺部 34 と第 3 マット部 40 の上辺部 41 とが縫い合わされる。

10

【0048】

手芸用カラーテープを、第 1 マット部 20 の裏面部 20B に対応するキルティング材の内側面、第 2 マット部 30 に対応するキルティング材と裏地との間、のそれぞれに幾重にも縫付けて合計 6 個（左右各 3 個）の第 1 取手部 101、102、第 2 取手部 103 を取り付ける。

【0049】

第 1 マット部 20 の収納部 50 を形成するため、第 1 マット部 20 のキルティング材の表面部 20A および裏面部 20B の上辺部 21、左辺部 22、右辺部 23 の縁のみを縫い合わせ、下辺部 24 に開口部 110 を設けて袋状にする。

20

【0050】

また、図 2、8、9 に示すように、袋状の開口部 110（第 1 マット部 20 の裏面部 20B の下辺部 24）の中央部に第 1 マット結合部 123 としての面ファスナー 123 を縫い合わせる。

【0051】

また、図 6 に示すように、第 2 マット部 30 のキルティング材の絵柄のある表面側（裏地とは反対側）の左辺部 32 および右辺部 33 のそれぞれの下部に長さ 370 mm、幅 50 mm の結合部 121 としての面ファスナーを縫い合わせる。第 2 マット部 30 のキルティング材の絵柄のある表面側（裏地とは反対側）の上辺部 31 の中央部に、第 1 マット結合部 123 としての面ファスナー 123 を縫い合わせる。

30

【0052】

さらに、図 7 に示すように、第 3 マット部 40 のキルティング材の裏地面側（絵柄のある表面側とは反対側）の左辺部 42 および右辺部 43 のそれぞれの下部に長さ 230 mm、幅 50 mm の結合部 122 としての面ファスナーを縫い合わせる。

【0053】

第 2 マット部 30 と第 3 マット部 40 とを縫い合わせて一体化し、扁平筒形状の袋状の第 1 マット部 20 の下辺部 24 に、第 3 マット部 40 と一体に形成された第 2 マット部 30 の上辺部 31 を縫製して介護マット 10 が完成する。なお、第 2 マット部 20 と第 3 マット部 40 とは、1 枚の生地から形成されても良いし、図 6 の第 2 マット部 30 と図 7 に示す第 3 マット部とが縫製されて形成されても良い。

40

【0054】

以上のように縫製することにより、第 1 マット部 20 には収納部 50 が形成され、第 2 マット部 30 と第 3 マット部 40 とにより、利用者 200 の脚部 202 を包む袋状部分を形成できる。また、第 2 マット部 30 に利用者 200 の脚部 202 を載置して第 3 マット部 40 を第 2 マット部上に折り返したとき、介護マット 10 の表面側にはキルティング材の絵柄が現れ、利用者 200 に明るい影響を与える。また、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 を収納部 50 に収納したとき、第 1 マット部 20 の表面部 20A および裏面部 20B のキルティング材の絵柄が、第 1 マット部 20 の外面として現れるので、介護マット 10 の保管や持ち運びなどに美観を損なわない。

【0055】

50

このようにして得られた介護マット 10 は、第 1 マット部 20 の収納部 50 に第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 を収納することにより、介護マット 10 のコンパクト化を図ることができる。さらに、介護マット 10 は、第 1 マット部 20、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 の三重構造の厚みで高いクッション性が得られる。

【0056】

以上のようにして、介護マット 10 を製造することが出来る。なお、本発明は、このような製造方法に限らず、第 1 ~ 第 3 マット部 20 ~ 40 を一体として縫製するなど、任意の製造方法を採用できる。

【0057】

次に、図 10 ~ 図 24 に従って、本実施形態に係る介護マット 10 の使用方法の一例について説明する。

10

【0058】

図 10 ~ 図 12 は、介護マット 10 を利用者 200 の背面とベッド 400 との間に配置する使用状態を説明する図である。

【0059】

まず、介護マット 10 は、収納部 50 に第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 を収納した状態で使用する。図 10 に示すように、ベッド 400 上で寝ている利用者 200 を、矢印で示す左方向に変換させ、介護マット 10 の第 1 マット部 20 を、長手方向に平行な方向で折り曲げて、利用者 200 の背中にあてがう。

【0060】

20

次に、図 11 に示すように、利用者 200 を矢印で示す右方向に変換させ、利用者 200 の左方向から第 1 マット部 20 を引っ張って第 1 マット部 20 をベッド 400 の上に展開する。次に、図 12 に示すように、利用者 200 を左方向に変換させ、利用者 200 を介護マット 10 の第 1 マット部 20 の上に仰向けにさせて、介護マット 10 を利用者 200 の背中とベッド 400 との間に敷く。介護マット 10 は、素材がキルティング材のため、介護マット 10 を丸めたり折り曲げたりする作業が容易であるため、簡単に利用者の背中に敷くことができる。

【0061】

図 13 ~ 15 は、四肢に障害を有する利用者 200 の移動の使用状態を説明する図である。

30

【0062】

まず、第 2 マット部 20、第 3 マット部 40 を収納部 50 から引き出し、図 10 ~ 図 12 で説明した手順で、図 13 に示すように、介護マット 10 を利用者 200 の背中に敷く。次に、利用者 200 を仰向けにさせた状態で、図 13 の矢印に示すように、第 2 マット部 30 の結合部（面ファスナー）121 および第 3 マット部 40 の結合部（面ファスナー）122 を貼り合わせて、第 3 マット部 40 で第 2 マット部 30 上の脚部 202 を覆うようにして、利用者 200 の両足を入れる脚袋を作る。

【0063】

このような状態で、利用者 200 を移動する際は、図 14 に示すように、介助者 301 ~ 303 の 3 名で利用者 200 の身体を浮かせて移動する。すなわち、介護マット 10 の左右、足許に介助者 301、302、303 がそれぞれ立ち、介助者 301、302 が第 1 取手部 101、102 を、介助者 303 が第 2 取手部 103 をそれぞれ一つずつ片手で持ち、利用者 200 の身体を浮かせて移動する。

40

【0064】

さらに、利用者 200 を車椅子 401 移動する際は、図 15 に示すように、利用者 200 の身体を浮かせて移動した後、介護マット 10 を敷いたままゆっくりと車椅子 401 に乗車させる。このとき、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 が結合部（面ファスナー）121、122 により利用者 200 の脚部 202 を保持して固定しているので、利用者 200 の足元を乱すことなく、脚部 202 をフットレスト（足を乗せるステップ）402 に乗せることができ、適切に利用者 200 を車椅子 401 に乗せることができる。

50

【 0 0 6 5 】

第２マット部３０の結合部（面ファスナー）１２１と第３マット部４０の結合部（面ファスナー）１２２は、利用者２００の脚部２０２を第２マット部３０に載置してから結合しても、先に結合して脚袋を形成してから利用者２００の脚部２０２を挿入しても良い。

【 0 0 6 6 】

いずれにしても、本実施形態では、第３マット部４０を第２マット部３０に折り返して結合部１２１、１２２で結合しているので、身長的大小にかかわらず適正に利用者２００の脚部２０２を保持、固定できる。

【 0 0 6 7 】

さらに、第２マット部３０および第３マット部４０のそれぞれの左右側部に形成された着脱可能な結合部（面ファスナー）１２１、１２２の結合であるため、脚部にマチ（空間）４０４が生まれ、利用者２００の脚部２０２の移動の自由度を確保することができ、利用者２００に不快感を与えることはない。結合部（面ファスナー）１２１、１２２が、本実施形態のように、長さＪまたはＫを有することにより、結合位置を調整可能とすることができ、結合の程度を調整することができ、利用者２００の快適な位置で脚部２０２を保持、固定できる。

【 0 0 6 8 】

図２５は、本発明の介護マットの使用時の要部を示す図であって、第２マット部３０および第３マット部４０で利用者２００の脚部２０２を保持、固定している脚部２０２を示す拡大図である。図２５では、結合部（面ファスナー）１２１、１２２を長さ方向すべてに結合しているので、脚部２０２の両側部は覆われており、図１５に示すような、側面から見た時のマチ（空間）４０４は現れないが、第２マット部３０および第３マット部４０で形成される袋状の内部ではマチ（空間）が発生している。

【 0 0 6 9 】

このように、本実施形態の介護マット１０の特徴の１つは、図１３、図１５、図２５に示すように、第３マット部４０を第２マット部３０の表面側に折り返して面ファスナー１２１、１２２で結合し、利用者２００の脚部２０２を包むことができる点にある。利用者２００の脚部２０２を第２マット部３０および第３マット部４０で包むことにより、車椅子４０１に乗車させた利用者２００のフットレスト４０２の前後左右やステップ間の隙間から片足または両足を床面に落とす脱落事故を防止することができる。更に車椅子４０１に乗車させた状態の利用者２００を介護福祉車両（介護タクシーなど）に乗車させるとき、車椅子４０１を介護福祉車両に搭載のウインチで車内に移動させる際に生じるフットレスト４０２の前後左右やステップ間の隙間から、利用者２００の片足が落ちる事故も防止することができる。また、足を骨折した状態の利用者２００をベッド４００からストレッチャーに移乗させる際、利用者２００の両足を包むことにより固定が出来、安全に移乗することができる。さらに、介護マット１０の素材がキルティング材であることから、レントゲン撮影時も利用者２００は介護マット１０を敷いた状態で、両足を包んだ状態での安定した撮影が可能である。このように利用者２００の脚部２０２を保持、固定する必要性があることは、いつも利用者の傍で介護をしている者でないと理解できないことであり、脚を包むことによって、利用者も介護者も安心、安全な介護が行える。

【 0 0 7 0 】

図１６～図２０は、第１マット部２０の収納部５０に第２マット部３０および第３マット部４０を収納した状態で利用者２００の体位を変える動作を説明する図である。

【 0 0 7 1 】

図１６は、利用者２００が仰向けで寝ている状態を示している。図１０～１２で説明した動作で、利用者２００を介護マット１０の上に寝かせる。

【 0 0 7 2 】

図１７は、仰向けで寝ている利用者２００の上半身を介助者３０１が、介護マット１０の左右両方の両肩甲骨部分の第１取手部１０１を把持し、介助者３０１が、矢印に示すよ

10

20

30

40

50

うに、手前に引き起こしている状態を示している。介助者 301 は、仰向けで寝ている利用者 200 の右腹部あたりに座り、又は立った状態で介護マット 10 の左右両方の両肩甲骨部分の第 1 取手部 101 のそれぞれ左右を持ち、手前に引いて利用者 200 の上半身を起こす。

【0073】

図 18 は、仰向けで寝ている利用者 200 を、矢印に示す右向きに寝返りを打たせている状態を示している。介助者 301 は利用者 200 が寝ている左側の肩甲骨部分の第 1 取手部 101 および左側の臀部部分の第 1 取手部 102 をそれぞれ片手で一つずつ持ち、手前に引いて右側に寝返りを打たせる。

【0074】

図 19 は、仰向けで寝ている利用者 200 を、矢印に示す左向きに寝返りを打たせている状態を示している。介助者 301 は仰向けで寝ている利用者 200 の右側に座り、介護マット 10 の右側の肩甲骨部分の第 1 取手部 101 および右側の臀部部分の第 1 取手部 102 をそれぞれ片手で一つずつ持ち、利用者 200 の左側に押し込むようにして左に寝返りを打たせる。なお、このとき、まくらなどの補助具 403 を利用者 200 の臀部部分にあてがうと寝返りを打たせやすい。

【0075】

図 20 は、仰向けで寝ている利用者 200 を二人の介助者 301、302 が利用者 200 の身体を浮かせて移動する状態を示している。介助者 301、302 の 2 名がそれぞれ左右の位置又は前後に立ち、右側に立った介助者 302 が右側の肩甲骨部分の第 1 取手部 101 および臀部部分の第 1 取手部 102 を持ち、左側に立った介助者 301 が左側の肩甲骨部分の第 1 取手部 101 および左側の臀部部分の第 1 取手部 102 を持って持ち上げ、移動する。

【0076】

図 16 ~ 20 に示す介護マット 10 の利用では、利用者 200 は脚部 202 に障害がないため、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 で利用者 200 の脚部 202 を保持していない。しかし、利用者 200 の脚部 202 に障害がなくとも、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 で利用者 200 の脚部 202 を保持、固定して移動することは可能である。利用者 200 が高齢者の場合は、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 で利用者 200 の脚部 202 を保持、固定することは効果的である。

【0077】

上記したように本実施形態では、第 2 マット部 30 と第 3 マット部 40 の左右側部の着脱可能な結合部 121、122 で利用者 200 の脚部 202 を覆うため、脚部 202 の周囲にマチ（空間）404 を確保でき、利用者 200 に不快感を与えずに脚部 202 を保持、固定できる。

【0078】

図 21 ~ 図 24 は本実施形態の介護マット 10 の他の使用形態を説明する図である。

【0079】

図 21 は、第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 を収納部 50 に収納した状態で、介護マット 10（すなわち第 1 マット部 20）を 4 つ折りに畳む方法を示す図である。まず、第 1 マット部 20 の開口部 110 から収納部 50 に第 2 マット部 30 および第 3 マット部 40 を入れて収納する（ステップ a ~ b）。

【0080】

次に、介護マット 10 の短辺と平行な方向で介護マット 10 を中央部で折り返す（ステップ c ~ d）。第 1 取手部 101、102 は第 1 マット部 20 のそれぞれ短辺から同じ位置に設けられているので、介護マット 10 を中央部で折り返したときに、第 1 取手部 101、102 は互いに重なるように位置する（ステップ d）。

【0081】

次に、介護マット 10 の短辺と平行な方向で介護マット 10 を第 1 取手部 101（102）の縫い付け部でさらに折り返す（ステップ e ~ f）。

10

20

30

40

50

【 0 0 8 2 】

これにより、第 2 マット 3 0 および第 3 マット 4 0 を収納して 4 つ折りにして第 1 取手部 1 0 1、1 0 2 同士を合わせた介護マット 1 0 が得られる（ステップ g）。

【 0 0 8 3 】

図 2 2 は、車椅子 4 0 1 に座った状態の利用者 2 0 0 の背中から両脇の下にかけて、図 2 1 に示す方法で 4 つ折りに畳んだ介護マット 1 0 を挟んだ状態を示している。図 2 3 は、利用者 2 0 0 の両脇左右に挟んだ第 1 取手部 1 0 1、1 0 2 を介助者 3 0 1 が利用者 2 0 0 の正面に立ち、左右それぞれの第 1 取手部 1 0 1、1 0 2 を持ち、介助者 3 0 1 の胸元まで引き付けて利用者 2 0 0 を立たせた状態を示している。図 2 4 は、利用者 2 0 0 を引き上げたままベッド 4 0 0 にゆっくりと座らせた状態を示している。

10

【 0 0 8 4 】

従来の介護方法は、介助者が車椅子に乗った状態の利用者の正面に立ち、利用者の背中に介助者が両手を組んで引き上げ、立たせている。このような従来の介護方法では、場合によっては介助者の肌が利用者の皮膚に擦れて利用者の皮膚が剥がれたり、痛みも伴ったりする。本実施形態の介護マット 1 0 を使用することで、利用者と介助者とが直接に肌を合わせることもなくなり、利用者の皮膚が剥がれたり、痛みが伴ったりすることはない。以上に述べたように、本実施形態の介護マット 1 0 を用いることで、施設介護だけでなく在宅介護においても、利用者 2 0 0 を、痛みを伴わず容易にベッド 4 0 0 から車椅子 4 0 1 やストレッチャーに移動させることができる。また、寝たきりの利用者に対しても容易に体位変換をさせることができ、床擦れ予防になる。介護マット 1 0 は柔らかいキルティング材を二重にして縫製していることから軽量でありかつ、丈夫である。

20

【 0 0 8 5 】

また、本実施形態の介護マット 1 0 は、第 1 マット部 2 0 の幅 A が 4 8 0 mm であるため、利用者 2 0 0 の身体の下に入れ込み易いサイズでかつ、キルティング材の柔らかさも伴って違和感もない。従って、利用者 2 0 0 の身体の下に敷いたままでの利用が可能である。また、キルティング材は通気性も良く洗濯も可能であり、即乾性にも優れている。

【 0 0 8 6 】

このように、本実施形態の介護マット 1 0 は、キルティング材を素材としているため、
(1) 通気性に優れ、柔らかくて軽く丈夫である。
(2) 寝たきりの利用者にも違和感無く、布団やベッドに敷いたまま使用できる。
(3) 洗濯が簡単で即乾性に優れ、清潔である。
(4) 寝たきりの利用者に対して、起こす、体位を変える、ハンモックの様に持ち上げ、浮かせての移動、移乗が可能である。
(5) 床擦れ防止に役立てることができる。
(6) 四肢を動かさない利用者に対して両足を包み込むことにより、安全かつ、痛みを伴うことなく移動が可能である。

30

【 0 0 8 7 】

また、本実施形態の介護マット 1 0 は、第 1 マット部 2 0 の収納部 5 0 の中は空洞になっているため、第 2 マット部 3 0 および第 3 マット部 4 0 を簡単に収納することができる。用途によっては容易にコンパクト化することができる。

40

【 0 0 8 8 】

本実施形態の介護マット 1 0 は、第 1 マット部 2 0、第 2 マット部 3 0 のキルティング材に、第 1 取手部 1 0 1、1 0 2 として手芸用カラーテープを合わせて縫製していることから、体重の重い利用者 2 0 0 にも安心して使用できる。

【 0 0 8 9 】

本実施形態の介護マット 1 0 は、今後、日本国のみならず諸外国においても実用可能である。さらに、在宅介護で利用者を自宅で介護する家庭や、病院、介護施設、介護福祉タクシー等、実用の範囲は広い。また、動物病院等、大型動物の移動にも使用できるものである。

【 産業上の利用可能性 】

50

【 0 0 9 0 】

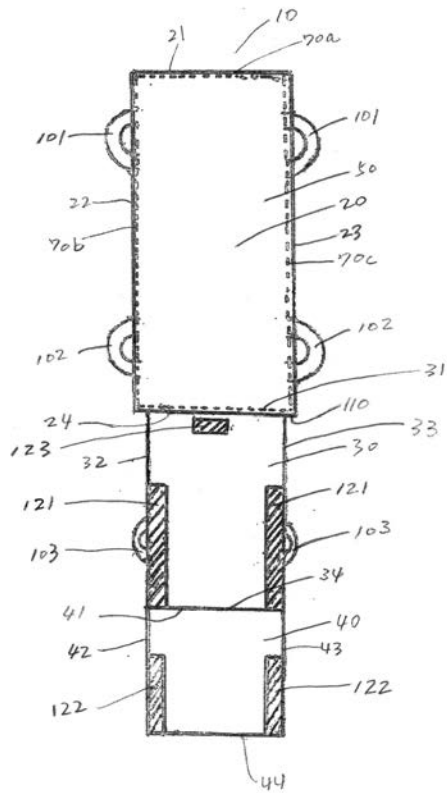
本発明は、利用者に負担をかけずに利用者の介護を容易に行えるので、高齢者、傷害者だけでなく、動物などの介護マットに有効である。

【 符号の説明 】

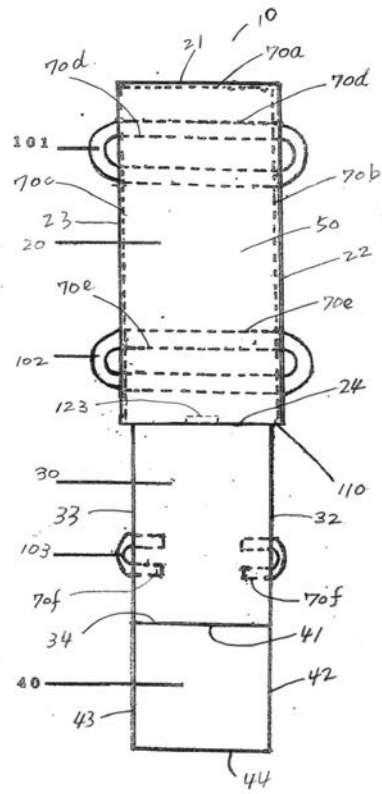
【 0 0 9 1 】

1 0	介護マット	
2 0	第 1 マット部	
2 0 A	表面部	
2 0 B	裏面部	
2 1、3 1、4 1	上辺部	10
2 2、3 2、4 2	左辺部	
2 3、3 3、4 3	右辺部	
2 4、3 4、4 4	下辺部	
3 0	第 2 マット部	
4 0	第 3 マット部	
5 0	収納部	
7 0 a ~ 7 0 f	縫い合わせ部	
1 0 1、1 0 2	第 1 取手部	
1 0 3	第 2 取手部	
1 1 0	開口部	20
1 2 1、1 2 2	結合部	
1 2 3	第 1 マット結合部	
2 0 0	利用者	
2 0 1	胴体部	
2 0 2	脚部	
2 0 3	頭部	
3 0 1、3 0 2、3 0 3	介助者	
4 0 0	ベッド	
4 0 1	車椅子	
4 0 2	フットレスト	30
4 0 3	補助具	
4 0 4	マチ（空間）	

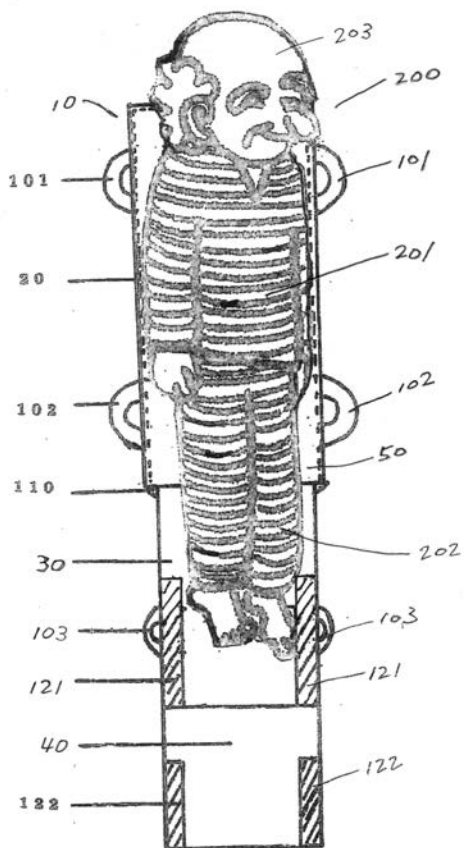
【図 1】



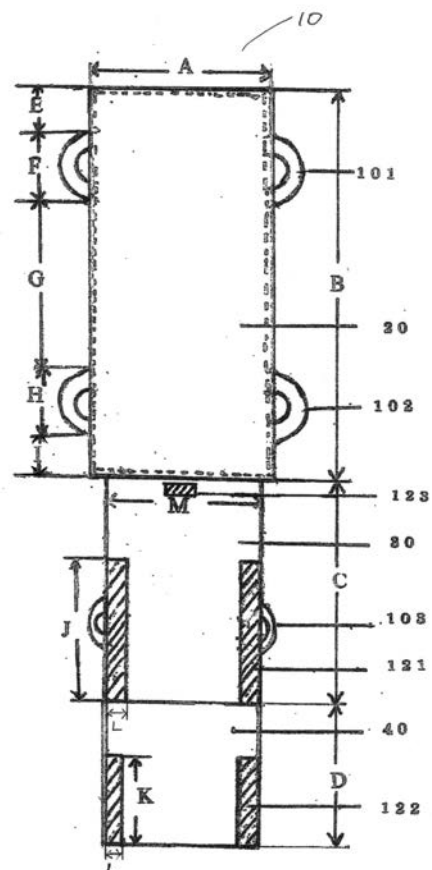
【図 2】



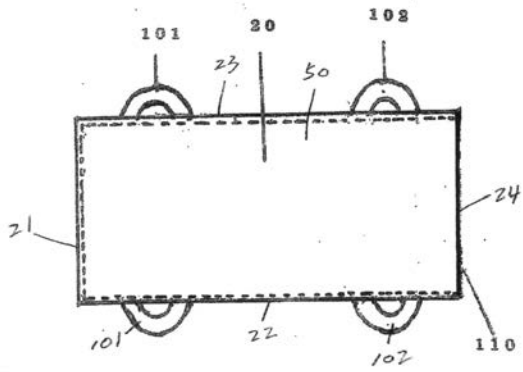
【図 3】



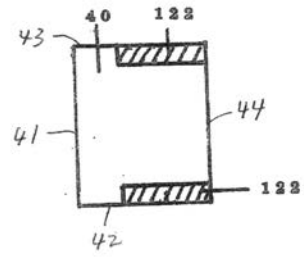
【図 4】



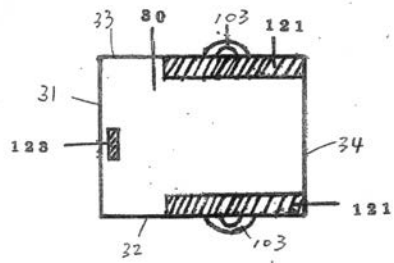
【図 5】



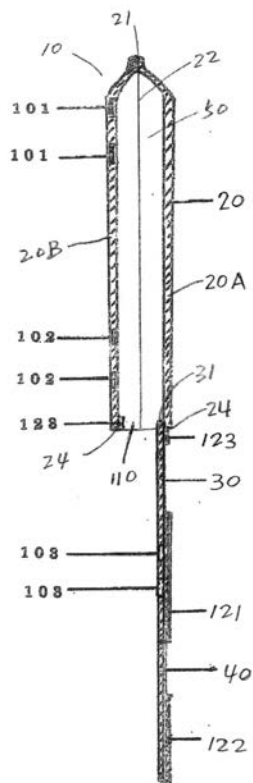
【図 7】



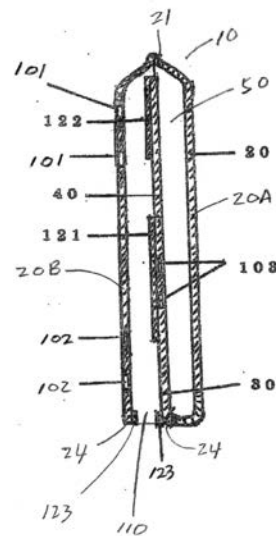
【図 6】



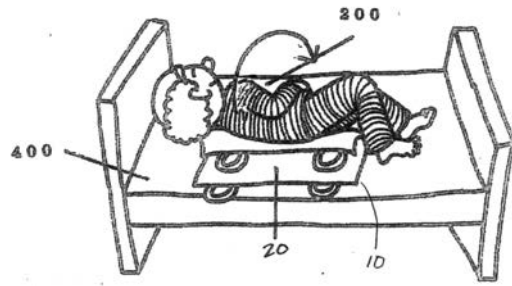
【図 8】



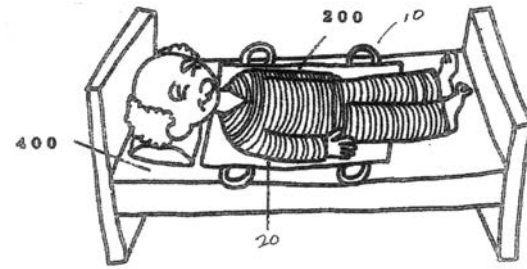
【図 9】



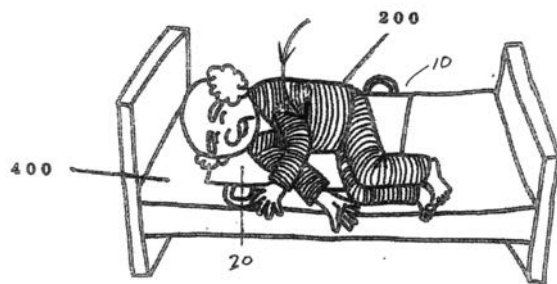
【図 10】



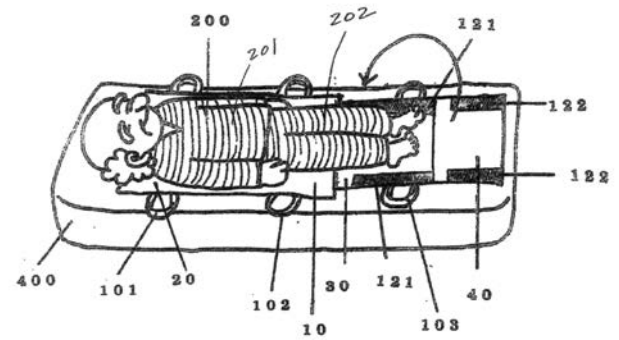
【図 12】



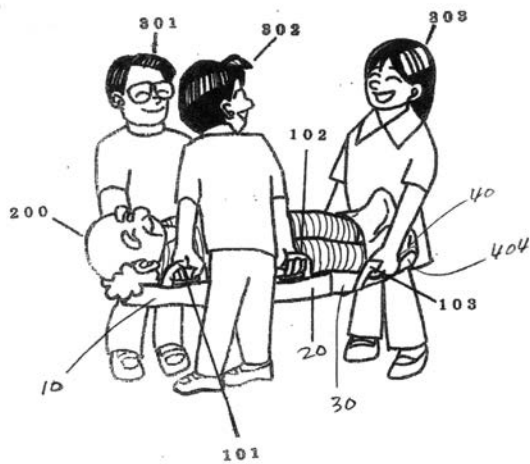
【図 11】



【図 13】



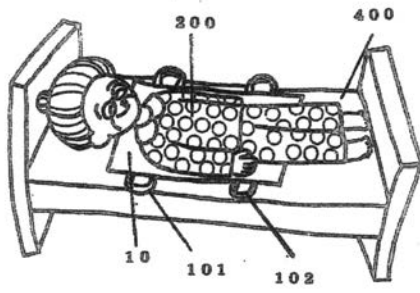
【図 14】



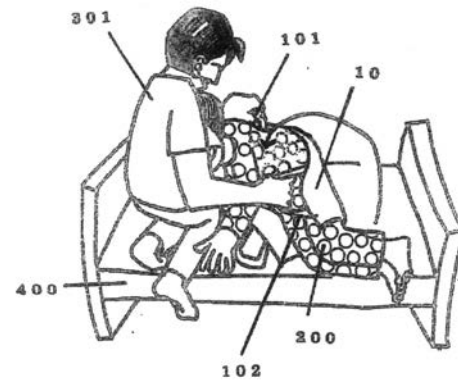
【図 15】



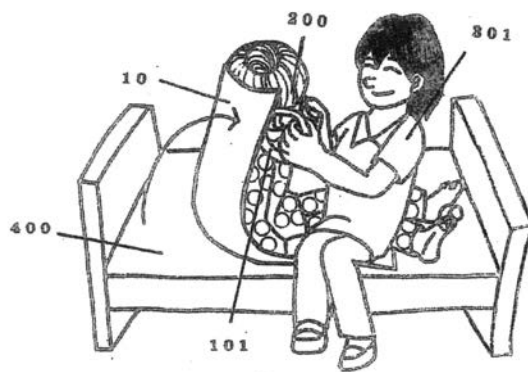
【図 16】



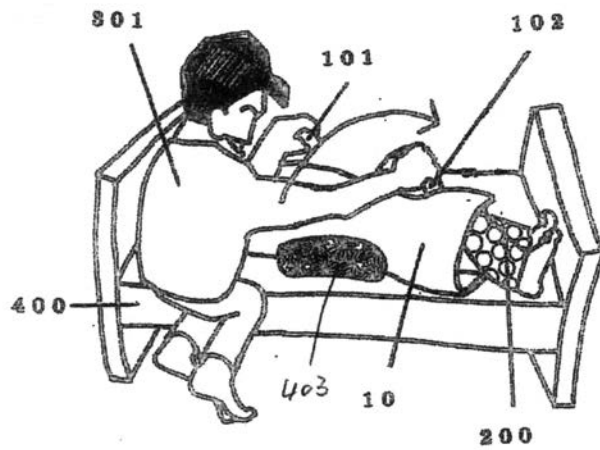
【図 18】



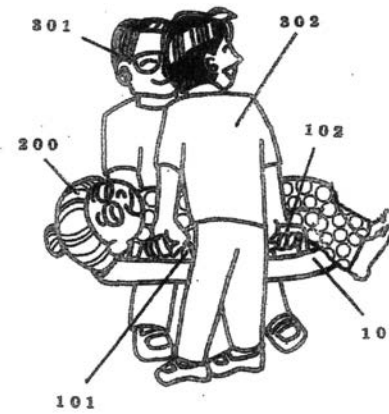
【図 17】



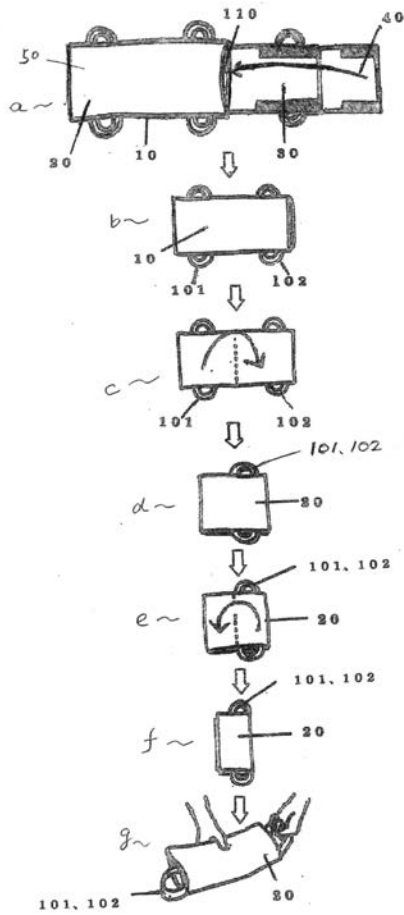
【図 19】



【図 20】



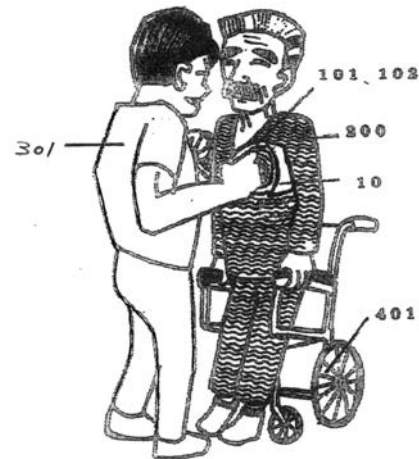
【図 2 1】



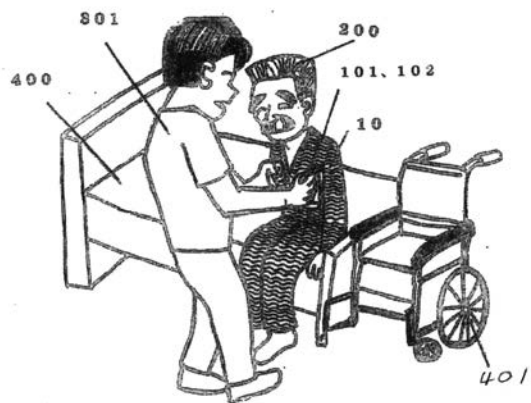
【図 2 2】



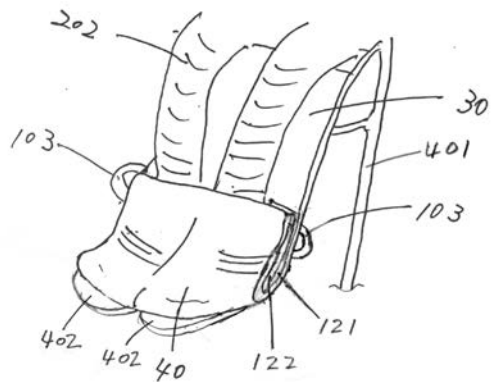
【図 2 3】



【図 2 4】



【図 2 5】



【手続補正書】

【提出日】令和2年3月19日(2020.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被介護者の胴体部が載置される縦長形状の第 1 マット部と、前記縦長形状の前記第 1 マット部の下部に結合され前記被介護者の脚部が載置される第 2 マット部と、前記第 2 マット部の下部に結合され前記被介護者の脚部を覆う第 3 マット部と、前記第 1 マット部の左右側部に設けられた第 1 取手部とを備え、前記第 1 マット部は、前記第 2 マット部および前記第 3 マット部を収納する収納部を有する介護マット。

【請求項 2】

前記第 2 マット部および前記第 3 マット部のそれぞれの左右側部に設けられた、前記第 2 マット部および前記第 3 マット部の着脱を可能にする結合部と、前記第 2 マット部の左右側部に設けられた第 2 取手部とを備え、前記第 2 マット部の左右側部の前記結合部のそれぞれは、前記第 3 マット部の左右側部の前記結合部のそれぞれと結合される請求項 1 に記載の介護マット。

【請求項 3】

前記第 1 取手部は、前記第 1 マット部の左右側部のそれぞれに 2 個設けられた請求項 1 に記載の介護マット。

【請求項 4】

前記第 1 マット部および前記第 3 マット部は、キルティングからなる請求項 1 に記載の介護マット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の介護マットは、被介護者の胴体部が載置される縦長形状の第 1 マット部と、縦長形状の第 1 マット部の下部に結合され被介護者の脚部が載置される第 2 マット部と、第 2 マット部の下部に結合され被介護者の脚部を覆う第 3 マット部と、第 1 マット部の左右側部に設けられた第 1 取手部とを備え、第 1 マット部は、第 2 マット部および第 3 マット部を収納する収納部を有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

さらに詳細には、本発明の実施形態に係る介護マット 10 は、利用者 200 の頭部 203 の少なくとも一部および胴体部 201（腰部および臀部を含む）を保持する第 1 マット部 20、利用者 200 の脚部 202 を保持する第 2 マット部 30、利用者 200 の脚部 202 を覆って保持する第 3 マット部 40 の 3 つのマット部から構成される。

第 1 マット部 20 の左右側部（長方形形状の左辺部 22 および右辺部 23）には、ループ状の紐などからなる、それぞれ 2 つずつ合計 4 つの取手部 101、102 を備える。第 2 マット部 30 の左右側部（左辺部 32 および右辺部 33）にはそれぞれ 1 つずつ合計 2 つの

U字形状の紐などの取手部 1 0 3 を備える。